

国際サーカス村通信	VOL. 18 N004	2014年 4月 4日 (金)
		文責 西田 敬一
編集 NPO 法人国際サーカス村協会	〒376-0303 群馬県みどり市東町座間 41-1	
Tel0277-70-5010 Fax0277-97-3688	http://www.circus-mura.net	k-nishida@accircus.com

## ●無事にナージャ先生来村、授業開始

3月21日(金)に、ウクライナからナージャ先生が来村。政情不安というか、荒れるウクライナから先生が無事に日本に来られるか心配していたが、授業が始まる17日には間に合わなかったものの、来村してくれてひとまず安心。彼女の心の内にはロシア、プーチン大統領に対する怒りが渦巻いているにちがいないとはいえ、その気持ちをどのように慰めていいのかわからない。

3月25日(火)から3日間ほど、以前も来たことのある高校生と初めての専門学校生がナージャ先生の指導を受けた。入学希望者ではないのだが、コントーションを専門に勉強したい女性たち。二人とも目的がはっきりしているのが頼もしい。というのも、サーカス学校に入学する生徒の中には、なにを学びたいか不明な生徒がいて、何をやるかを決めるのに1、2年がたってしまうことがあるからだ。もちろん、それでも、1、2年後に目的をもって練習に励むようになればいいのだが。ただ、練習が好きになれないというか、練習をさぼる生徒は、身体を使った技でパフォーマーになるのは無理なので、そのあたりのことを早めに自覚してもらいたいと思う。生徒数は相変わらず7名と少なく、もう少し集まるといいのだが、さまざまなパフォーマンスの短期のワークショップなどがあちこちで行われるようになってるので、ここ沢入に居を移してサーカス学校に入学し、何年かここで勉強して技を身に着けるには、それなりの覚悟が必要になってくる。それは学校ができたときから変わらないのだが、希望者の環境はここ何年かの間にかなり変わってきているのも事実である。それだけに、サーカス学校の運営をどうするかを考えていかなければならないだろう。

## ●“サーカスはリヤカーに乗って”、旅立つ

去る3月9日(日)、サーカス学校プロジェクト第2弾ともいべき、“サーカスはリヤカーに乗って”は、高崎市の城址公園で行われた<群馬 200万人さよなら原発>に参加し、その旅を開始した。本来は、3月11日(火)の東日本大震災3年目のその日に足尾からスタートと決めていたが、3月9日の脱原発集会に参加依頼があったので、喜んで参加させてもらった。そして11日には、足尾・親水公園横の、松木溪谷入口から1時半にスタートした。ミュージシャンのげんきいぞう、紙芝居のじゅうべえ、そしてサーカス学校卒業生のヨシとピエロのナナ、それに健太。東京から壱岐さん、秩父から磯田さん、学校の発表会に毎回欠かさず来てくれる会員の菅谷さんらが駆けつけてくれた。この出発点からリヤカーを引いたり、時に車にリヤカーを積んだりしながら、足尾の街を遊行。足尾小学校に着き、玄関先の広場で、3時半過ぎから1時間ほどパフォーマンスをおこなった。小学生、中学生らが寒い中、見てくれた(新聞記事ご参照)。

足尾に引き続き、16日(日)は、横浜の都市発展記念会館・ユーラシア会館開館祭、そして千葉の御宿町の牛舎8号という鶏卵牧場で21日から3日間のイベントに参加。ここは、かつて牛を飼っていたところで、今は牛は飼育していないがたくさんの鶏に卵を産ませている鶏卵センターだ。ここの責任者で

ある三成拓也氏と上総一宮に移転したパフォーマーの三雲いおり氏が懇意になり、企画したイベントが今回のパフォーマンスフェスティバルで、プレイメント「サーカスはリヤカーに乗って」と銘打ってやってくれた。とてもいいイベントになり、この8月に本番を行うことになっている。残念ながら僕は旅の途中で参加できないが、成功を祈りたい。また26日（水）には、地元東町の花輪の街道でリヤカー遊行し、社会福祉センターで公演。期待してなかった投げ銭が集まり、びっくりした次第である。

会報発送と前後すると思うが、この後、4月6日（日）には、大間々の朝市そして粕川町の赤城山麓でのイベントに参加、11日（金）には、経済産業省前のテントひろばで公演する予定。このテントひろばでの公演は参加自由なので、多くのパフォーマーが来てくれると楽しいのだが。時間は午後5時から7時の間。



↑リヤカー出発、松木溪谷入口（2014.3.11）



↑げんきいいそう/足尾小学校（2014.3.11）



↑じゅうべえ/足尾小学校（2014.3.11）



## ●ウクライナ情勢を見て思うこと

私がウクライナのサーカス学校に留学していたのはちょうどオレンジ革命の時でした。

親ロシア派のヤヌコビッチ氏による総選挙不正疑惑から親ヨーロッパ派のユーシェンコ氏が抗議行動をおこして選挙をやりなおしユーシェンコ氏を当選させた革命です。

首都キエフの中心街では戦車でバリケードが作られ、オレンジ色の帽子やマフラー、手袋が屋台に並び、車のでっぺんにオレンジ色の旗を掲げてクラクションを鳴らしながら走行している人もいました。

もちろん親ロシア派の集会などもあり、街全体が落ち着かず、登校してくる友人も減って不安になったのを覚えています。

そんな中、サーカス学校のある先生が「デモやボイコット、対立があちこちで起こっているけど私たちは仕事（練習）しよう」と言ったのを今更のように思い出しその事について考えています。

サーカスを構成している技術は人を楽しませる技術です、そこに本来国境はなく主義主張もない真っ白なものです。

技術を持ったアーティスト一人一人が自由にそれぞれの道を歩んで行ってほしいと言いたかったのではないでしょうか。

あれから、約十年が経ち見知ったキエフ中心街の一部が衝突で真っ黒になり、ついに死傷者がでてしまいました。そしてロシアの軍事介入からのクリミア半島ロシア編入。

クリミア半島のヤルタから来たと言っていた自称ロシア人の友人もいて、今どこで何をしているのだろうかと思いながら、決して人ごとでないウクライナ情勢を注視しています。（高村篤）

## ●遠いウクライナ

ウクライナ共和国は遠い国です。

実際の距離だけではなく、日本人にとって普段あまり耳にする機会がなく、心情的に遠い国です。

最近、そのウクライナの名前を毎日テレビや新聞で目にするようになりました。

ロシア軍がウクライナに進攻し、南部のクリミア地方をロシアに（住民投票の結果を受けて）併合したからです。

しかし、連日ウクライナについての報道がされても、今なおウクライナは遠い国のままです。

ニュースの「解説」に曰く「新たな冷戦の始まり」また曰く「欧米とロシアの新たなパワーバランス」しまいには、「日本はプーチン政権と親密な関係を築いている、北方四島を還してもらうため、ロシアを強く批判すべきではない」。自国の利益のために他者の痛みを黙認すべき、というこの考えは私には非常に理解し難いものがあります。

少し話が逸れましたが、いずれにしてもこれらの「解説」に欠けているのは、ウクライナ人、ロシア人、そしてあの地方に住む様々な諸民族が流すことになる“血”、そして遠い未来にまで残される“恨”ではないのでしょうか。

3月19日のニュースでは、ウクライナの兵士が一人死亡した、と伝えました。しかし、ニュースでは

この兵士が何という名前なのか、どんな人物だったのか、家族はいたのか、女性なのか男性なのか、全く伝えていませんでした。

何の罪もない（おそらく）人間が戦闘で死亡したにも関わらず、です。

ウクライナはこれほどまでに遠い国です。

ご存じの方も多いと思いますが、僕が卒業した沢入国際サーカス学校の先生はウクライナから日本に来ています。

ティシェンコワ・ナジェイジダ先生。僕たちはナージャ先生、と呼んでいます。僕が生まれて初めて出会ったウクライナの人が先生でした。僕が今、見知らぬ人の前に立って、その人から拍手を貰えるのは、先生のおかげです。倒立→クロコダイルという技があります。この技は、最初から最後まで足に力を入れ続けなければいけないのですが、初めはそれがどうしてもできません。先生は毎日僕の足を持って補助してくれました。練習中の技が成功した時の先生の笑顔と、「マラディエツ（よくできました）！！」の言葉はとても大きなモチベーションでした。

先生の息子さんは、今ウクライナにいます。彼が日本に来た時、一緒に空中芸の練習をしたことがあります。宙に投げられた僕の手を、彼はしっかりと掴んでくれました。

大きな身体に似合わず、イタズラ好きで少し甘えん坊さんなどところもありました。死んだウクライナ兵も、もしかしたらそんな人物だったのかも知れません。

もしも、事態が悪くなってゆき、本格的な戦争が起きれば、彼も銃を持ってしまうのでしょうか。日本でニュースを見るしかない、先生や先生の娘さんの心配そうな顔を見ると、胸が苦しくなります。ウクライナは、僕にとって少しだけ近い国です。

できることなら、この文章を読んでもくれた皆さんにも、ウクライナを少し近くに感じてほしいと思っています。本棚や、押し入れの中からありったけのサーカスのパンフレットを取り出して、ページをめくってください。きっと、ウクライナやロシアにルーツを持ったアーティストが渾身の笑顔や、命懸けの演技で写真に写っているでしょう。

もしも本格的な戦争が起きれば、彼ら（彼女ら）も銃を持ってしまうのでしょうか。

そう思った時、あなたにとってウクライナは少しだけ近い国になるでしょう。

もしも、この文章を読んで、「何かをしたい」と思っていただけの方は、在ロシア大使館や日本外務省に事態の平和的解決を求める手紙や FAX を送ってください。（田中健太）

在日ロシア連邦大使館

〒106-0041 東京都港区麻布台 2-1-1

FAX 03-3505-0593

外務省

〒100-8919 東京都千代田区霞が関 2-2-1

※こちらからも、意見が送れます。（編集部追記）

<https://www3.mofa.go.jp/mofaj/mail/qa.html>

## ●サーカス・シルクール（スウェーデン）

2014年1月17日～22日の旅程で、スウェーデンに、サーカス・シルクールを、観に行ってきました。

サーカス・シルクールという名前は、フランス語で「サーカスとハート（Cirque' and 'Coeur）」を意味するのだそうです。

サーカス・シルクールは、創立者となるティルダ・ビョルフオスが、パリに滞在中に観たヌーヴォー・シルク（特に当時全盛だったアルカオス）に触発され、若いアーティストたちとともに、1995年に立ち上げたサーカスですが、NPO 団体として、様々な活動をしています。彼らは自身のサーカスを、“コンテンポラリー・サーカス”と呼び、スウェーデンに現代的なサーカスを定着させることを目指しています。



設立当初より、スピーディーで挑発的なステージに若者が熱狂し、スウェーデンでは、どの公演も即完売となるほどの人気です。スウェーデン政府の後押しもあり、世界各国で公演を行っていますが、日本には、2001年に滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール（TRIX）、2005年には愛知万博と、神奈川県川崎市の川崎クラブチッタ（99% unknown）に、来日しています。



コンテンポラリー・サーカスを、多くの人に体験してもらいたいという活動のひとつとして、1990年からは、障害のある人たち対象の活動も行っています。

コンテンポラリー・サーカスのトレーニングは、楽しみながら、勇気づけられるものであり、身体的な技能を改善し、自信をもち、社会的なコミュニケーション術も強化しようというものです。

1997年からは、本格的に、スカンジナビア初のコンテンポラリー・サーカス教育を開始します。2005年には、大学教育のシステムに組み込まれ、今日では、それは、「ダンスとサーカスの大学」として運営されています。

これらのことからお分かりいただけるかと思いますが、シルクールは、教育にはとても力を入れており、ワークショップやレクチャー、サーカス・キャンプなどもいれると、年間で約 30,000 人が、シルクールの教育システムに何らかの形で触れているということです。

学校には、27 あまりのコースがあり、5 才以上であれば、初心者でも参加でき、特徴的なのは、若者も老人も、アマチュアもプロフェッショナルも、障害があってもなくても、一緒に訓練を行い、お互いに刺激しあうということです。

サーカス・アーティストになりたいという夢をもったなら、シルクールの学校に行けば、その夢への第一歩を始められるわけです。

学校やオフィスがあるポートシルカ市（ストックホルム南部）には、シルクール・ラボがあり、海外のアーティストもスウェーデン国内のアーティストも、個人でもカンパニーでも、あらゆるリサーチをしながら、創作活動を行える場所を提供しています。

2003 年にも訪問していますが、今回も再訪問。スタッフの数が、断然増えていることに驚きました。それだけ、活動がうまくいっているということなのでしょう。



今回は、サーカス・シルクールの新作、“Knitting Peace”を観覧しました。直訳すると、“平和を編む”となりますが、その名の通り、舞台美術はすべて白で編まれたもので統一され、サーカスの道具類も、何かしら“編まれたもの”が入っていました。



2005 年に招聘した“99% unknown”は、身体がテーマで、観客を、細胞を通して身体内部の旅に誘うものでしたが、実はこれは身体をテーマにした 3 部作となり、2 作目は、“Inside out”という心臓をメインにしたの表現作品で、最終作となる 3 作目は、“Wear it like a crown”という、右脳と左脳の衝突を探求した作品となりました。この 2 作目と 3 作目を見逃したのは、とても残念です。

サーカス・シルクールの作品は、すべて創立者であるティルダ・ビョルフォスが作・演出をしています。音楽は生演奏、ユニークな舞台装備と舞台美術、ダンスや演劇との融合というところは、共通しているところですが、新作の Knitting Peace は、これまでの作品と少し趣が異なります。

これまでのシルクールの作品は、美術や衣装、照明に、様々な“色”が施されていましたが、Knitting Peace は白一色です。どこまでも白白白。真っ白な舞台を、浮き上がらせるようにデザインされた照明の技術は、とても素晴らしいものでした。

そして、真っ白な中に、小さな赤い毛糸の人形がポツン。あの赤い人形は、何を象徴しているのだろうと、それを聞くのを忘れてしまったことに、帰国してから気づきました。

劇場内（ロビーも観客席）には、大きさも形も編み方も違う、様々な白の毛糸で編まれたものたちが、展示されていました。これは、HP上で公募し、集まったものだそうです。ロビーでは、編み物のワークショップや、好きなように好きなだけ編んでくださいと、毛糸と編み針があり、観客は入れ替わり立ち替わり、編んでいました。私も少し、編み足しました。



音楽も、これまでのスウェディッシュロックではなく、オルタナティブで、且つよりクラシカルな曲調でした。これまでのミュージシャンが（特に女性シンガー）インパクトが強かったため、ちょっと拍子抜けしましたが、Portisheadを彷彿とさせる音楽には、すぐに引きこまれました。ミュージシャンはひとりだけ。シンセサイザーとパーカッションを使って演奏していましたが、サーカス・アーティストも、バイオリンを奏でたり（このアーティストは、一輪車に乗ったり、綱渡りをしながらも、演奏していました）、歌を歌ったりと、音楽にも参加します。

これまでの明るくロックなシルクールとは、少し違うので、暗いと思われる人もいるかもしれませんが、静かに編み糸に絡み取られてしまうかのように、引き込まれていく作品です。前回の身体三部作のように、サーカスのもつ奥深さ、懐の深さを追及する連作になるのではと想像もしています。

終演後には、スウェーデンの観客に、感想を聞く機会を持つことができました。いくつか簡単に紹介します。

- ❖ 演技の組み立て方がおもしろく、ストーリーラインもとてもおもしろかった。
- ❖ サーカスを初めて見たが、創造活動のひとつとして、素晴らしいと思った。
- ❖ サーカス技だけでなく、ダンスをしているような美しい動きが素晴らしかった。
- ❖ アクロバットとダンスを融合することで、サーカスの間口を広げた素晴らしいサーカス。
- ❖ とても詩的で、あらゆる方法を駆使して見せてくれた。シルクールの作品はすべて観ているが、いつも素晴らしい体験をさせてくれる。
- ❖ 体の動きや、コントロールが、マジカルだ。

どの人も、素晴らしかった！という感想でしたが、シルクールがどれだけスウェーデンでは有名で、社交辞令ではなく、本当に楽しんでいることが、伝わってきました。ある女性は、「日本の人がノーベル賞を受賞した年に、シルクールは受賞パーティーでパフォーマンスをしたのよ」と、とても誇らしげでした。

作品を作り、公演をし続けるというのも大変なことです。サーカス・シルクールが、こうして息長く活動を続けられているのは、社会的な活動や教育面での活動を含め、劇場という場所以外のところでも、



人々に触れ合う機会がより多く、たくさんの人からの応援があるからではないだろうかと思いました。  
(大野洋子)



## 最新サーカス公演情報

### ★木下大サーカス

●岡山公演 公演期間 2014年6月7日(土)～2014年8月31日(日)

●休演日；木曜日と6/11(水)、7/2(水)、7/16(水)、8/12(火)。但し8/14(木)は開演。

●会場；岡山操車場跡地ひろば ●電話；岡山公演事務局 086-234-0045 (5月31日まで)

### ★ポップサーカス

●太田公演 公演期間 2014年4月26日(土)～2014年6月15日(日)

●休演日；水曜日 ●会場；イオンモール太田 大テント ●電話；太田公演事務局 0276-30-1120

### ★シルク・ドゥ・ソレイユ ダイハツ『ovo (オーヴォ)』大阪公演

草木の下の生き物たちの世界を描いた初のファンタジー作品『オーヴォ』。カラフルで個性的な動きを見せるキュートなキャラクターたちに癒され、純粋で一途な恋の物語に心が温まる。

大阪公演会場：中之島ビッグトップ 大阪公演後、名古屋・福岡・仙台公演と続きます。

大阪公演：2014年7月17日(木)～10月14日(火)

ほか日程など詳細は公式サイトにてご確認ください。 <http://www.fujitv.co.jp/events/ovo/>

### ★リトルスプリングイベント “ロシアアスリートサーカス”

ロシアからやってきた10名のアーティストが、鉄棒やトランポリンなどスポーツ由来のサーカス芸を中心に、スリリングでスピード感あふれる迫力のパフォーマンスショーを開催します！

●公演期間 2014年3月15日(土)～2014年6月22日(日)

●時間 平日 11:30/14:00、土日祝 11:00/13:00/15:00 (各回約40分)

●休演日；火曜日 ●会場；野外民族博物館リトルワールド 野外ホール ●電話；0568-62-5611

リヤカーを舞台にアクロバットを披露した=11日、栃木県日光市足尾町赤沢



◎田中健太さんの見事なバランス芸に「すごい！」◎リヤカーにサーカス学校メンバーの思いを掲げている=いずれも11日、栃木県日光市足尾町赤沢



## 反原発 リヤカーからゆるく訴え

### サーカス 沖縄への旅

#### みどりの「学校」OBら、出発

東京電力福島第一原発の事故の影響で敷地内の放射線量が基準値を超え、一時休校を余儀なくされたみどりの市の「沢入国際サーカス学校」(西田敬一校長)のOBらが11日、反原発を訴

の11日、公害の原点と言われる足尾銅山跡(栃木県日光市足尾町)近くから出発した。ゴールは基地問題が絡く沖縄と定めている。西田校長は「原発事故は最悪の大公害。被害者でもある私たちの声を届けたい」と力を込める一方、「でも肩に力を入れないで、ゆるくいきたいね。大

道芸と一緒にできるはずだよ。」リヤカーは小道具入れにも、楽屋にも、舞台にもなる。この日は同校OBの田中健太さん(28)、末広祥久さん(28)、クラウンのナナさんがジャグリングやローラーバランス、バルーンアートなどを披露。津波をテーマにした紙芝居も上演し、日光市立足尾小学校の児童らを魅了した。

今後は本拠地と行き来しながら、県内や横浜、千葉を回り、4月11日には経済産業省前のテント広場で公演予定。その後は静岡、長野、岐阜、京都と西に向かつて旅を続ける。観覧料はとらないが、「カンパ」を呼びかけていく。「行く先々で地元のパフォーマーと共演したい」と西田校長。問い合わせは同校(0277・70・5010)へ。(馬場由美子)